

## 株式会社グリーンエナジー<sup>1</sup>

### (創業・ベンチャービジネスモデル)

- 株式会社グリーンエナジー（以後グリーンエナジー）は新潟県十日町市に本社があり、食品工場や医療・福祉施設などから排出される廃棄物を処理するための焼却炉（ACE 燃焼システム）の設計・施工、その運営のための人材派遣などを主に行っている企業である。
- 10 創業 8 年を振り返り、人がやらないことをビジネスにしてみたが、これまでの事業は前進したかと思えば、なかなか計画したようには進めないという状況を繰り返してきた。しかし、小海社長は、年商 2 億円を、近い将来には何十倍にもしていきたいと切望している。しかも、このビジネスはリサイクルの発想に基づいており、環境にもやさしいため、将来必ず成功すると確信もしている。熱い思いを持ったメンバーのパワーが、ベンチャーであるグリーンエナジーの原動力となっているのである。

#### グリーンエナジーの創業

- 20 グリーンエナジーは、十日町市で 30 年近く友人同士であった小海社長、取締役の松井氏、取締役・工務部長の高橋氏が、それぞれ抱いていた思いを、平成 13 年（2001 年）にビジネスの形にしたことから始まった。現在は、主に営業を担当する環境事業部（松井氏担当）と、実務を担当する技術管理部（高橋氏担当）に別れており、合計 8 名（監査役を含めると 9 名）の組織<sup>2</sup>である。しかし、組織とはいえベンチャー企業であるので、時間があれば皆が相互に何でも担当していく。社長も同様で、プレゼンテーションの資料作りから、営業活動、現場での焼却炉の代行作業、資金の確保のために奔走、など社長としての仕事だけでなく、社員同様にも動き回っている。
- 30 小海社長は 1962 年新潟県十日町市生まれ。高校を卒業後、広告代理業や新聞編集者を経て、1993 年に（有）グリーンサムを創業し、自治体や企業の PR、情報誌の制作、イベント企画運営を行っていた。また、松井氏はイベント事業、高橋氏は織物会社に勤務していた。しかし、40 歳近くなった時、各自が「果たしてこのままでよいのだろうか」と当

<sup>1</sup> 本ケースは株式会社グリーンエナジーの協力を得て、独立行政法人中小企業基盤整備機構 経営支援情報センターの笠原一絵リサーチャーが、株式会社ヘッドクォーター・山内英二郎のアドバイスを受けて執筆し、同センター鈴木直志統括ディレクターと矢口雅哉ディレクターの意見を参考に作成したものである。また、クラス討議の資料として作成されたものであり、特定の経営管理に関する適切又は不適切な例示をすることを意図したものではない。本ケースの著作権は、独立行政法人中小企業基盤整備機構に帰属する。（2010 年 3 月）

<sup>2</sup> 添付資料 1 を参照